

今週の 倫理

3/23(土) まいど! 倫理です。格のたよりがあつたら 浦に3/23(土)の項を
いかにあつてですか。おたのせいか 3/24からスタートします。
今週の対話は「心の底にもカーネギー」です、明日の中央新報のチラシを
2013. 3. 23~3. 29

813号

ご覧下さいませ 最高の干支が来ました。早くも出来
ました、又ご意見をあつたせいで嬉しいです。
相手の美点をあつたせいで「おは得意です。受けも嬉しい可
き幸せ運にアホ鳥

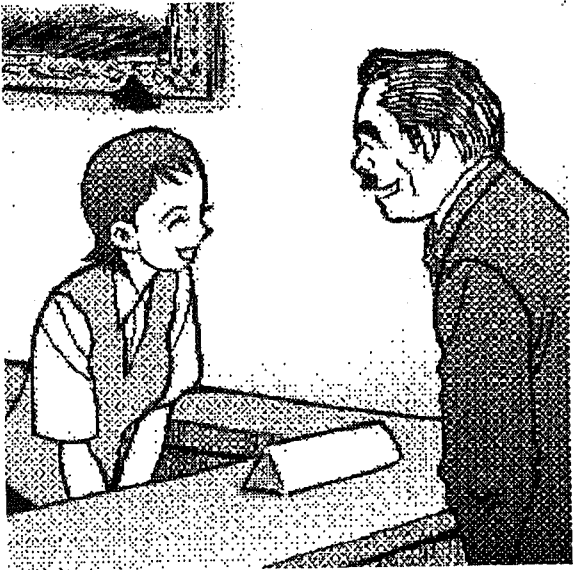
慶応義塾大学の小林良樹教授(国際関係論・社
会安全政策)は、東日本大震災の影響による福
島第一原発事故関連の調査を行ないました。
原子炉建屋の爆発直後に住民の救出や避
難誘導に当たった福島県警の警察官125
人の68%は死の恐怖を感じ、41%は任務の
放棄も考えていたことがわかりました。
任務放棄を考えたのは、「自分や家族の安
全を心配したため」というのが、そのほとん
どの理由でした。ただし実際に現場を離れた
警察官はいませんでした。

小林教授は「日頃から良好だった職場の人
間関係が、連帯感や使命感を生む土壌になっ
た」と分析しています。「警察は逃げるわけ
にはいかない。覚悟してくれ」「最後まで務
めを果たすぞ」など、幹部の指示や励ましも
心の支えになったともいいます。

私たちの職場においてはどうか。
従業員による事故や取引先の倒産など、突然
のトラブルに巻き込まれ、窮地に立たされる
ことがあるかもしれません。不測の事態が生
じた際に、こういった対処がとれるかは、普
段、仲間とどのように付き合っているかにか
かっていると云えましょう。

「阿吽の呼吸」「以心伝心」など、日本では
言葉はなくても心が通じ合う関係があると
されます。しかし、普段から自分の気持ちを
伝える習慣がなければ、相手とのコミュニケ
ーションを維持することはできません。

職場において、チームワークを良いものへ
と向上させるには、いくつかのポイントがあり
ます。その一つは、相手の美点を見つけ、そ



絵・今谷 鉄柱

プラスの言葉を発し 社内の空気を变える

れを伝える習慣をつけることです。

米国の大実業家で、多くの自己啓発書を著
したデール・カーネギーは、「自己重要感を
与えることが、人を動かす不滅の法則であ
る」と述べています。「私たちは相手に自分
のことをもっと深く知ってほしいと願って
いる」という意味です。

「君は本当によく仕事をしてくるね」など、
相手から自分へ理解を示されることは、誰も
が望むことでしょう。表向きはそうしたこと
を口に出さない人でも、心の奥底では自尊心
の充足を求めているものです。

また、人に対して改善点を指摘する場合で
も、ちよつとした工夫をするだけで、より良
い人間関係を築くことにつながります。それ
は「どういうタイミングで、どのような表現
で伝えるか」という工夫です。

急に予定外の仕事を頼まれた時に、「次か
らはもつと早く言ってくれないと困る」と感
じたとしても、そのままストレートに言うの
でなく、「前倒しで予定を教えてもらえると
助かります」と明るく肯定的な表現のほうが、
両者の関係をこじらせずにすみます。

言葉というものは、使い方によっては相
手を傷つける刃にもなりかねませんし、逆に
少々の工夫をするだけで、絆を強くする金の
糸にもなります。

力強いチームワークで仕事にあたるよ
うになるためにも、普段から相手への理解を
深めていきたいものです。前向きな言葉によ
るコミュニケーションが自然と滲み出るよ
う心がけていきましょう。